



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)

<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

●発行：2014年1月 医療連携センター

Contents

- 院長 新年のご挨拶 …………… 1
- 手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入! …… 2
- 開心術700症例達成 記念講演会開催 …… 3
- 緩和ケアセンターのご紹介 …………… 4
- 新任医師のご紹介 …………… 4

2014年のご挨拶



横浜市立みなと赤十字病院
院長 四宮 謙一



明けましておめでとうございます。

旧年中は、当院の運営にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、横浜市立みなと赤十字病院も開院後9年が経過しようとしています。お陰様で、外来患者数、入院患者数、手術数、紹介率、逆紹介率など、すべての部門で診療実績は向上しており、地域の先生方、住民の皆様とのつながりも毎年強まってきているように感じます。

救急車の受け入れ台数は、過去3年間、全国でベスト3に入っています。不応需率も現在では2%以下となり、救命救急センターの対応能力は大きく向上いたしました。今後も地域の救急医療に積極的に貢献していきたいと考えています。

設立から2年が経過したがんセンターは大変充実してきています。がん腫ごとのキャンサーボードが整備され、外来化学療法センターの拡充、PET-CTの導入など、地域がん診療連携拠点病院にふさわしいがん診療体制ができ上がりつつあります。また、従来から可能な限り腹腔鏡や内視鏡手術による低侵襲手術に努めてまいりましたが、2013年12月には手術支援ロボット、da Vinciを導入し、より低侵襲でより正確ながんの外科治療を目指しています。地域と一体となったがん診療連携体制が強く要求されている現在、緩和ケア

センターやがん相談支援センター、がんサロンなど、より一層の充実を図っています。2013年には地域の数多くの病院と伴にがん病連携会を発足させ、横浜南部地区全体でのがん診療レベル向上に努力しています。更には、地域の登録医の先生方とのカンファレンスや、より詳細な報告書返送などに努めており、切れ目のない顔の見えるがん診療を進めていきたいと考えています。

がん以外の領域でも、手術症例数の増加に伴い、その手術内容もますます高度化、複雑化しています。できるだけ患者さんにとって負担の少ない脊椎内視鏡下手術、関節鏡下手術、大動脈ステント手術などの低侵襲手術にこれまで以上に力を入れていきます。

また、4大死因である、がん、心臓疾患、肺炎、脳血管障害などに対しては予防医学の役割も更に大きくなると考えています。健診センターでは内視鏡検査を中心とした人間ドックに加えて、脳・肺・レディースドックなどに力を入れて、2014年度には横浜市の検診にも積極的に参加し、地域に根差した疾患予防に努めていきます。

最後になりましたが、質の高い医療には、最新医療技術の提供や最新の医療機器の整備に加えて、医療実績や結果などについての透明性の高い情報提供はもちろんのこと、患者さんの心を支える全人的医療ができる医療人育成も必須です。まだまだ道半ばかもしれませんが、横浜市民から信頼される医療を提供できるようにステップアップしていきたいと考えていますので、ご指導ご鞭撻の程、心よりお願い申し上げます。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入！

泌尿器科 部長 土屋 ふとし

昨年2013年12月に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しました。

「ダヴィンチ」はアメリカで開発された最新鋭の内視鏡手術支援ロボットです。

2012年4月に前立腺癌に対する前立腺全摘除術が保険適応となって以来、日本でも爆発的にロボットの導入がすすんでおり、2013年4月には100台を超えています。横浜市ではすでに済生会横浜市東部病院、横浜労災病院の2施設が導入しており、当院は3施設目となります。

実際の手術は医師が少し離れた場所からロボットを遠隔操作して行います。ロボットを利用することにより、これまでの内視鏡手術と比較してはるかに精巧な手術が行えます。ロボット本体から伸びるロボットアーム（ロボットの手）には人間の手の動きを縮小して伝える機能、手振れ防止機能などが備わっています。ロボットアームの先には人間の手の可動域よりも幅広い鉗子が接続され、小さな穴から体内へ挿入され手術を行います。3次元の拡大された鮮明な視野のもとで行うので、人間の手では困難な細かい神経や血管に対する処置を行うことが可能となりました。また創も小さいので、体への負担の少ない低侵襲の手術

が行えます。そのため術後早い段階から歩行、摂食ができ早期の社会復帰が可能となります。

前立腺癌に対する前立腺全摘術は従来の術式と比較して癌の根治性に優れ、出血が少なく、術後の尿失禁、勃起などの機能回復が早いことが特徴です。米国ではすでに前立腺癌のほぼ90%、腎部分切除、膀胱全摘除術の多くがロボット手術で行われています。日本でも近い将来同じ状況になると予想されています。また今後は婦人科、腹部外科、呼吸器外科、心臓外科領域などへの応用が期待されています。

ロボット手術は2月下旬から開始を予定しています。本号がみなさんのお手元に届くころには、当院ロボットチームは必死にトレーニングに取り組んでいるところです。ロボット導入により、地域の患者さんにより質の高い医療を提供可能になると信じています。

現在、日本では前立腺全摘除術のみ保険が適応されています。患者さんをご紹介いただければロボット手術の利点を丁寧に説明いたします。少しでも患者さんの治療に貢献できれば本望です。よろしくお願いいたします。



da Vinci S surgical system



ダヴィンチ チームメンバー

開心術700症例達成 記念講演会開催

心臓血管外科 部長 田 淵 典 之

心臓血管外科開設以来の累計症例数（開心術＋胸部大動脈手術）が、2013年10月に700症例を突破しました。

これを記念し、11月18日に横浜市開港記念会館にて、三井記念病院病院長、東京大学名誉教授の高本眞一先生をお招きし、“患者とともに生きる医療”についてご講演頂きました。30年以上にわたり我が国の心臓外科のリーダーとして活躍され、現在は医療全体を見渡す立場である高本先生は、“患者さんもチーム医療の一員であり”、“医療技術に驕ることなく患者とともに生きる医療人としての態度の大切さ”についてお話され、120余名

の参加者全員の魂に響く講演会となりました。

当院では、ここ数年間で僧帽弁形成術や胸部大動脈ステント手術の紹介患者が増加し、予定手術が順調に増えています。これにより、心臓血管外科チームの業務（体外循環、手術介助、集中治療、病棟業務、外来業務、薬剤処方、地域連携）が安定し、手術成績も良好に維持されています。特に近年の手術死亡率は、緊急手術を合わせても、1.5 - 2.0%です。

今後も当科診療へのご理解とご協力をお願いします。



会場風景

緩和ケアセンターのご紹介

緩和ケアセンター長 小尾 芳 郎

平成25年4月1日付けで、緩和ケアセンター長に就任し、もうすぐ1年が経過しようとしています。これまでの消化器外科医の立場から一転戸惑いながらも、非常勤で来ていただいている黒田俊也先生、日下部明彦先生のご指導の下、新たな気持ちで日々の業務に取り組んでいます。また、地域の先生方には日頃からご支援・ご協力を賜り、ありがとうございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

緩和ケア病棟では「地域の緩和ケアを支える」との理念の下、身体症状の緩和だけではなく精神的な苦痛緩和も行い、全人的なケアをチーム一丸となって提供しています。

一般的に「緩和ケア」というのがんの進行した患者さんに対するケアと誤解し、「まだ緩和ケアを受ける時期ではない」と思いこんでしまう患者さん、ご家族そして医療関係者は少なくありません。しかし、緩和ケアは最期に利用する場所ではありません。今後は地域の在宅医療機関との連携を強化し、在宅医療が困難となった患者さんやレスパイト目的の患者さんの入院に対応するなど、がん診療の早期から切れ目のない緩和医療を目指し、緩和ケア病棟に対するニーズに応えられるよう取り組んでまいります。

入院を希望される場合は、緩和ケア外来を受診し

ていただく必要があります。受診のお申し込みは原則としてご本人・ご家族からとさせていただきます。ご本人がお越しになれない場合は代理受診も可能です。ご連絡いただけてから外来受診までは多少お時間をいただきますが、外来受診後はご本人・ご家族の希望する時期に入院することができます。

病棟からは海を望むことができ、大変恵まれた環境の中でお過ごしいただくことができます。患者さんからは、スタッフの対応についても「安心感がある」という評判もいただいています。

お困りのことがございましたら、どうぞご相談ください。

今後ともご支援・ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



新任医師のご紹介

新しく就任した医師をご紹介します。今後、地域の先生方と地域医療の連携を推進していきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

*** 質問項目 ***

①診療科(専門領域) ②取得認定医 ③卒業大学 ④卒業年 ⑤趣味 ⑥地域の先生方へ一言!

タカデラ ムツミ
高寺 睦見

①脳神経外科
③富山大学
④平成22年
⑥テニス、スキー、旅行
⑥「頑張りますので、よろしくお願い致します。」



ヨシタニ マサト
吉谷 栄人

①精神科
③浜松医科大学
④平成23年
⑤サイクリング
⑥「よろしくお願いします。」



カサギミ オコ
笠木実央子

①小児科
③東京医科歯科大学
④平成22年
⑤絵画鑑賞
⑥「頑張りますのでよろしくお願い致します。」



紹介患者さんのお問い合わせご予約は地域医療連携課

電話 045-628-6365 (直通) / FAX 045-628-6367 (直通FAX)

E-mail: minato-renkei@yokohama.jrc.or.jp



横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL 045-628-6100(代表) FAX 045-628-6101

日本赤十字社